

ふれあいひろば



[患者とともにある全人的医療]

医療管理部って何をするところ？

医療管理部長 近藤大介

本年4月より医療管理部で仕事をさせて頂いております近藤と申します。医療管理部という名前はあまり馴染みがなく、一般の皆様には何をしているところか良くお分かりにならないのではないかと思います。私もまだ着任1ヶ月で、一生懸命仕事を覚えている段階ですが、現時点で私が感じている医療管理部の必要性、存在意義について紹介させていただきます。当院は新潟市の基幹病院として診療、教育、医療研究など多くの役割を担っており、これを果たしていく上では、各診療科が安全で活動的に仕事を行っていく必要があります。それには、裏方として補佐、調整をしていく部門も必要となります。各科、馬力のあるエンジンがなめらかに回るよう、潤滑油のように調整するのが医療管理部の仕事と云ってよいと思います。医療管理部の中には、さらに6つの部門があり日々活動しています。

◎**医療安全管理室**：患者さんが安心して安全な診療を受けられるように、病院内で発生した事故などを分析・検討し、再発防止策を立案、それに基づき職員の研修・教育などを行っています。

◎**感染制御室**：院内で発生している感染症についてのデータ集積、感染防止における問題の発見や改善策の検討、職員への感染症に関する正しい知識、技術の指導などを行っています。

◎**広聴室**：患者さんやご家族から寄せられる医療に関する様々なご質問やご意見に対応しています。ご意見は、電話やご意見箱、総合案内でも受け付けています。お寄せ頂いたご意見

には真摯な対応を心がけ、検討の上、院内に発信し病院の改善につなげています。

◎**治験管理室**：当院では新規薬剤の開発試験（治験）にも積極的に参画しています。全国あるいは世界的に行われている治験に、当院でも患者さんが安心して安全に参加いただけるよう、治験の意義や方法、説明の仕方などを厳密に審査する治験審査部会を開催し、治験進行中も問題がないか監視しています。

◎**臨床研究支援室**：疾病の予防方法や診断方法、治療方法を改善し、患者さんの生活の質の向上を目指して行う医学的研究のことを臨床研究といいます。院内より申請される臨床研究の倫理性、妥当性の評価やスタッフ向けの臨床研究研修会、医学統計に関する検討会の開催なども行っています。

◎**臨床倫理支援室**：主治医団が判断に苦しむ医療倫理上の課題について相談を受け、多職種チームで検討して、主治医団に助言を行う臨床倫理コンサルテーションを開催しています。臨床倫理の諸問題に対応する、院内のガイドラインなども作成しています。

直接、患者さんの目に触れることは少ないかもしれませんが、医療の様々な課題、問題に向き合いながら、少しでも安全で、先進的な、心の通う医療を提供できるように、また働く職員にとっても安全でストレスのない職場になるように、スタッフ一同が気概をもって取り組んでいます。今後もひっそりと水面下で行われている医療管理部の活躍にご期待ください。

ふれあいひろば

入院時から始まる「退院支援」 ～高齢社会をみんなで支えるために～

患者総合支援センター
医療福祉相談員 小林 朝美

少子高齢社会を迎えた今、高齢者を社会全体で支える社会づくりが喫緊の課題となっています。目指すべき高齢者の姿を「健康寿命」という言葉で表すこともしばしば見聞するようになりましたが、何かしらの病気を抱える高齢者が必然と多くなっていくことは免れない現実ではないかと考えます。また、高齢者に限った話ではありませんが、病気を抱えることや治療のため入院をすることによって、これまで一人でできていた日常生活動作（排泄、入浴、着替えや買物などの家事等）が一人ではできなくなってしまい、生活にあたり他者の支援や介助が必要な状態になり得ることも、想像に難くない現実と言えます。当院では、退院にあたり支援が必要な患者さんには、これまでも「退院支援」という形で、主に医療福祉相談員がその支援を担ってきました。



今年度4月より、退院にあたり支援が必要となることが予想される患者さんを、より早期の段階から支援できるよう、各病棟に「入退院支援職員」を配置し、病棟看護師などとも連携しながら支援を進めていくこととしました。この取り

組みは、高齢者を社会全体で支える社会づくりに貢献するために、病院が果たすべき役割の一つとも言えます。



「入退院支援職員」は主に医療福祉相談員がその役割を担い、これまでと同様、退院後の生活に不安のある患者さんに介護保険サービス等の利用可能な福祉サービスについて紹介したり、リハビリの継続や療養のために転院が必要な患者さんには、地域の病院についての情報をお伝えし、転院の準備を進めていく支援などを行っています。また、「退院支援」は「入退院支援職員」だけが担うのではなく、医師や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士など様々な職種と連携しながら進めていきます。退院後の生活についてどう考えているか、主に病棟看護師が入院して間もない時期におたずねすることもあります。早い段階からの支援という取り組みにご理解・ご協力いただければと思います。さらに「退院支援」は、病院内だけで完結するものではありません。高齢社会においては、医療と介護は切り離すことができない関係性であり、病院から地域へ切れ目のない支援を行うため、「入退院支援職員」は病院と地域をつなぐ役割も果たします。退院後、地域での生活を支える関係機関（地域包括支援センター、地域のケアマネージャー等）と連携を図り、患者さんが住み慣れた地域で生活を継続していくことができるよう支援していきます。

「もう退院の話!？」と、退院に対し不安に感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、「入退院支援職員」とともに、不安なことや退院後の生活における課題について、一緒に考えていきましょう。



ジェネリック医薬品とバイオシミラー

薬剤部長 山田 徹

科学技術の発展で、医薬品の開発は大きく進歩しました。その結果、日本人の平均寿命は男性80.75歳、女性は86.99歳で過去最高を更新しました。ちなみに新潟県は男性80.69歳、女性87.32歳となっています。一方、日本の国民医療費は年々増加しています。厚生労働省の資料によりますと、平成27年度は42兆円を超えました。これは国民一人当たりで換算しますと、年間でおおよそ33万円の医療費が支払われていることとなります。そこで患者さんや社会全体の経済負担を軽減するために登場したのが、後発薬です。後発薬とは、新薬の特許（原則6年）が切れた後、別の会社で製造販売される医薬品です。

その中で、遺伝子組み換え技術等のバイオ技術で作られたバイオ医薬品の後続薬をバイオシミラー、それ以外の後発薬をジェネリック医薬品と言います。ジェネリック医薬品は先発医薬品と有効成分、投与経路、用法・用量、効能・効果が同一の医薬品ですが、バイオ医薬品は分子量が大きく、構造が不均一で複雑なため、先行バイオ医薬品と同一性を実証することが困難です。そこで、ジェネリック医薬品よりも多くの試験を行い、先行バイオ医薬品と同等/同質の品質、安全性及び有効性を持っているか確認しています。すべての医薬品にジェネリック医薬品やバイオシミラーがあるわけではありませんが、ご興味のある方は、医師、薬剤師に是非ご相談ください。

名称	バイオ後続品(バイオシミラー)	後発医薬品(ジェネリック医薬品)
定義	●バイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と 同等/同質 の品質、安全性及び有効性を有する医薬品	●先発医薬品と有効成分、投与経路、用法・用量、効能・効果が 同一 の医薬品
製品特性	●高分子化合物 ●安定化に工夫を要する ●分子構造が複雑であり、同一性を示すことが困難なため、同等性/同質性を示すことが必要	●低分子化合物 ●安定 ●同一性を示すことが容易
製造	●細胞培養技術を用いた製法	●化学合成により製造
開発要件	●品質特性(有効成分・不純物等)の同等性/同質性の比較 ●非臨床試験で薬理作用を比較及び安全性を確認 ● 臨床試験で同等性/同質性 の比較[薬物動態(PK)試験、薬力学(PD)試験及びPK/PD試験を含む]及び安全性の確認 ●製造販売後調査(免疫原性の問題等に留意する)	●生物学的同等性試験(静脈内投与は免除)
薬価	●先行バイオ医薬品の70%* ●臨床試験が必要なことから10%を上限とした上乘せが相談事項として認められている *先行バイオ医薬品の補正加算の有無により70%未満になる場合がある。	新規収載後発医薬品 後発品が初めて収載される場合 ●先発品の60% ●内用薬で10品目を超える場合は50% 既収載の後発品の薬価は別途定められている

「アスパラ」

一年中おいしく食べることのできるアスパラガスですが、本来の旬は5～6月で、日本では主に長野・北海道・佐賀で多く生産されています。

アスパラの栄養

アスパラギン酸・・・アスパラから見つかったとされる栄養成分で、疲労回復やスタミナ増強に効果があるといわれています。

ルチン・・・穂先に含まれており、血管を丈夫にし、高血圧・動脈硬化予防が期待できます。

カロテン・・・病気に対する抵抗力を高めてくれます。

グリーンとホワイト

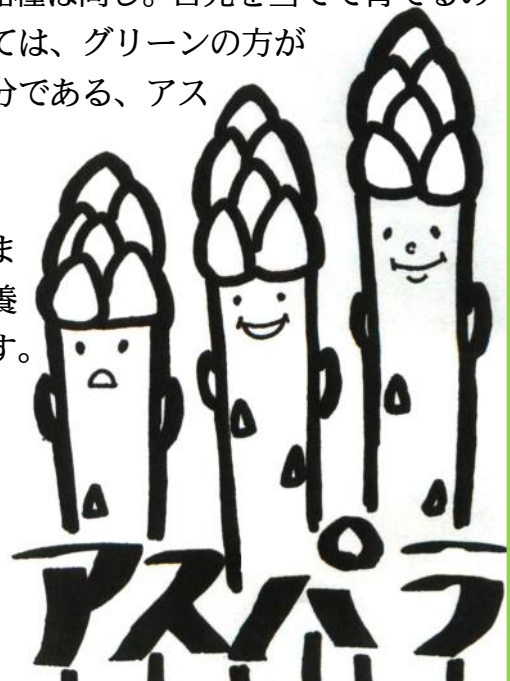
色の違うこの二種類ですが、栽培方法が異なるだけで実は品種は同じ。日光を当てて育てるのがグリーンで、日光を当てないのがホワイト。栄養価としては、グリーンの方がカロテンやビタミンB群が多いですが、アスパラ特有の成分である、アスパラギン酸はどちらにも含まれています。

紫アスパラ

グリーンやホワイトとは品種が異なり、認知度も高くありませんが、甘みや香りが強く、グリーンやホワイトよりも栄養価が高い、また、生のまま食べられるなどの特徴があります。

見分け方

- ・穂先がしまっている
- ・色が鮮やかで太いもの
- ・茎がしっかりしていて、まっすぐなもの



市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151

Fax 025 (281) 5187

編集後記

田んぼから蛙の大合唱が聞こえる季節になりました。
この時期は、気温の差が激しく体調を崩しやすくなります。

体調管理をしっかりしていきましょう。(H)